

## 和歌山県和歌山市

### 雑賀崎の観光スポットの情報発信と空き家の利活用



#### 【活動の基本情報】

参加学生数：7名（1年生：3名、2年生：4名）

活動期間：2022年4月～

#### 1. 活動実施の経緯

私たちは、2019年度にコンテスト参加のため発足した雑賀崎での活動を、より実践的に行うため昨年度からLPPとして活動している。昨年度の活動を生かし、地域住民の方々と地域団体と協力して、イベントの実施や空き家対策に向けての活動を行った。

#### 2. 活動の内容

今年度の雑賀崎LPPでは、空き家利活用に向けたイベントの企画・運営補助や、和歌山県の空き家モデル事業に参加した。10月に雑賀崎地域のNPO法人、さいかざきポッセが主催する「リターンさいかざき」というイベントの運営補助を行った。その中の企画の1つである、灘の浜で回収した海ゴミを用いたアート作品の製作といった企画を学生で考え、実行した。若者が雑賀崎に愛着を持ってほしいという思いを込めたこの企画は多くの小学生が参加し、好評の声をいただいた。同様に2月にもイベントが開催される予定であり、そこで旧正月をモチーフとした凧揚げの製作を行う予定である。

和歌山県の空き家モデル事業にも参加し、さいかざきポッセをはじめとする地域住民の方々と雑賀崎の空き家の活用方法について議論・調査を行った。まず、雑賀崎の認知度調査のために外国人観光客をターゲットとしたアンケート調査を高野山で実施した。次に、雑賀崎地域の空き家の現状を把握するため、聞き取り調査をもとに「空き家マップ」を作成した。さらに、作成したマップをもとに空き家の利活用に関する事例を学びつつ、点在する雑賀崎地域の空き家について、県・さいかざきポッセ・住民の方々と意見を出し合いながら今後の利活用方法について検討した。

#### 3. 活動を通じて

活動を通じて雑賀崎の魅力だけでなく、空き家の現状や課題についても理解を深め、活動の発展につながる学びを得ることができた。今後は観光客・住民が共存できるような地域づくりを行っていきたいと考える。

#### 4. 成果ポスター

# 和歌山市雑賀崎 LPP

## 雑賀崎の観光コンテンツの発信と空き家の利活用



### 1 雑賀崎 LPP の概要

**活動経緯や雑賀崎の魅力**

雑賀崎 LPP は 2022 年度より発足した LPP であり、今年度は雑賀崎地域の NPO 法人である「さいかさきボッセ」や和歌山県議の方、雑賀崎に住む方々のご協力のもと、活動を行ってきた。雑賀崎 LPP では、少子高齢化が進行するこの町を、観光まちづくりで活性化させ、若者に親しんでもらえるような町にすることを目的としている。

昨年度までは主に雑賀崎地域を知り、地元住民と観光客の共有方法についての活動を実施していた。今年度は雑賀崎の特徴である空き家の多さに注目し、活用方法について意見を出力してきた。雑賀崎は和歌浦を構成する町の1つである。建ち並ぶ家々の並びがイタリアのアマルフィに似ていることから、「日本のアマルフィ」と呼ばれ、イタリアとの親交も深い。その象徴として、旧雑賀崎小学校跡地に地域の方によりつくられたレモンの丘には、レモンが植えられている。

**雑賀崎の魅力ポイント**

- レモンの丘、トンボの森、雑賀崎灯台、立ち並ぶ家々、漁船から漁獲魚を購入できる「はたうり」など...
- 前巻物上げの活動参加
- LPP (学生主導型) として活動
- 週一回恒例のミーティングを実施
- メンバーは1回生3人2回生4人

### 2 活動内容

**雑賀崎の認知度**



n=126 (本宮大社で調査した方も含む)

**地方の農漁村を訪問したいと思うか**



**空き家モデル事業への参加**

**高野山のアンケート調査**

外国人観光客をターゲットとし、アンケート調査を実施。雑賀崎の認知度や漁村地域への関心度を調査。雑賀崎地域や高野山に関する知名度や訪問意向の情報を得ることができた。(結果は下記参照) 三層地域は本宮大社で実施。

**空き家マップの作成**

雑賀崎地域には空き家が多いという現状を受け、地域住民の方に聞き取り調査を実施したり、実際に街を見て回りながら1枚のマップにまとめた。使用可能な空き家や空き地などをそれぞれ色分けを行った。

**空き家モデル事業とは**

空き家を活用したまちづくりプランを作成するための和歌山県のモデル事業。具体的な事業の提案を行い、次年度以降、稼働を開始していくことを目的とする取り組みである。雑賀崎と美浜町三層地域の2箇所で実施。

**イベントの企画・運営補助**

10月にNPO法人さいかさきボッセが主催する「リターンさいかさき」というイベントの運営補助を行った。県の貸し借りした海苔を用いたアート作品の制作といった企画を自分たちで考え、実施した。2月のイベントでも子供向けの企画を実施予定。

**目的**

子供たちに雑賀崎の良さを知ってもらい、好きになってもらうことで将来も雑賀崎に留ってもらえる。当事者によって町を活性化させたいといった町の方の意向も込めて計画した。

### 3 活動を通じて

**今年度の活動について**

空き家の利活用について考えたり、地域の方々と交流したりすることによって、雑賀崎の魅力だけでなく、空き家の現状や課題など様々な問題点も見えてきた。今年度は、それらについて理解を深め、来年度につながる学びを得ることができた。

**次年度以降の活動について**

今年度は雑賀崎の空き家に関する現状や課題を知ることができたため、次年度からはより実践的な活動に入っていく。若い世代で雑賀崎が賑わう、そんなあたたかな場所を作り、空き家問題を解決するための一歩となる活動を行っていく予定である。

## 5. 空き家ワークショップについて（雑賀崎 LPP）

### （1）概要

日時：11月24～26日 1月19～21日

開催場所：ガッドブル

主催者：和歌山県空き家定住移住推進課・和歌山社会経済研究所の方々

計6日にわたるワークショップでは、今年度実施した高野山でのアンケート調査やマップ作り等から得た結果を用いた雑賀崎の強み・弱みの分析や雑賀崎をより良い地域にしていくための取り組み等を話し合い、運用していくにあたっての費用計算を行った。2グループに分かれ、雑賀崎住民の方々と学生双方からの観点で意見を出し合った。株式会社エンジョイワークス様が行っているものをはじめ、多くの空き家活用事例を学び、雑賀崎のエリア再生に必要な仕掛けのアウトプットを作成した。



### （2）成果

①雑賀崎の住民の方が営む、既に空き家改装が進行しているお試し居住施設の具体的な施設利用方法や運営費用、付随するプランを考えた。

②雑賀崎にある空き家を用いた観光客が滞在できる場所や魚をさばくことのできる場所、コインロッカー等雑賀崎に必要な機能を具体的な事業に落とし込んだ。それらの収支計算も行い、実現可能かどうかを可視化できた。



### （3）学生のフィードバック

- ・今回作成した資料を基に、来年度の雑賀崎 LPP の空き家利活用を行っていきたい。
- ・LPP でプロジェクトを行っていく際にも、一つ一つ計画を練る必要があり、情報収集も行いたい。
- ・まちづくりの難しさを知った。具体的な事業にまで落とし込んでいくことができたが、実際に雑賀崎を訪れる人を増やすためには内からの取り組みをもっと増やしていくべきである。

## 2023 年度 LPP 合同活動報告会 実施報告

和歌山県和歌山市

テーマ：雑賀崎の観光スポットの情報発信と空き家の利活用

雑賀崎 LPP は、4 人で合同報告会に参加しました。報告では今年度実施した空き家事業、自分たちで企画した子供向けイベント、今後の展望などを発表し、多くの方々に興味を持っていただきました。今回の発表を通して雑賀崎の魅力も発信できたのではないかと考えています。しかし、同時に雑賀崎の知名度が低いといった今後の課題も明確になりました。

発表後の Q&A や交流会の時間にいくつかの質問をいただきました。以下、それらを掲載します。

Q.高野山で実施したアンケートはどのような方法で実施しましたか？また、なぜ高野山なのですか？

A.英語で記載された用紙と Google フォームを用いてアンケートを実施しました。簡単な英語を話し、交流も行いました。高野山で実施した理由は、外国人観光客が多い地域であったためです。雑賀崎地域に英語圏の外国人観光客を誘致したいためこの場所を選定しています。

Q.ワークショップではどのようなことを話し合い、学びましたか？

A.他地域の空き家活用事例を学び、そこから実際に雑賀崎ではどのようなことができるかを議論しました。具体的にこの空き家ではこのようなことができるという部分も考えることができました。今後は今回得た結果を生かし来年度より本格的に空き家の活用に取り組んでいきたいと考えております。